（様式２０）提案概要資料

小田原市立病院の「持続可能な病院経営」を支える、Time + Space 時間と空間のデザインを皆様と共創します

基本方針

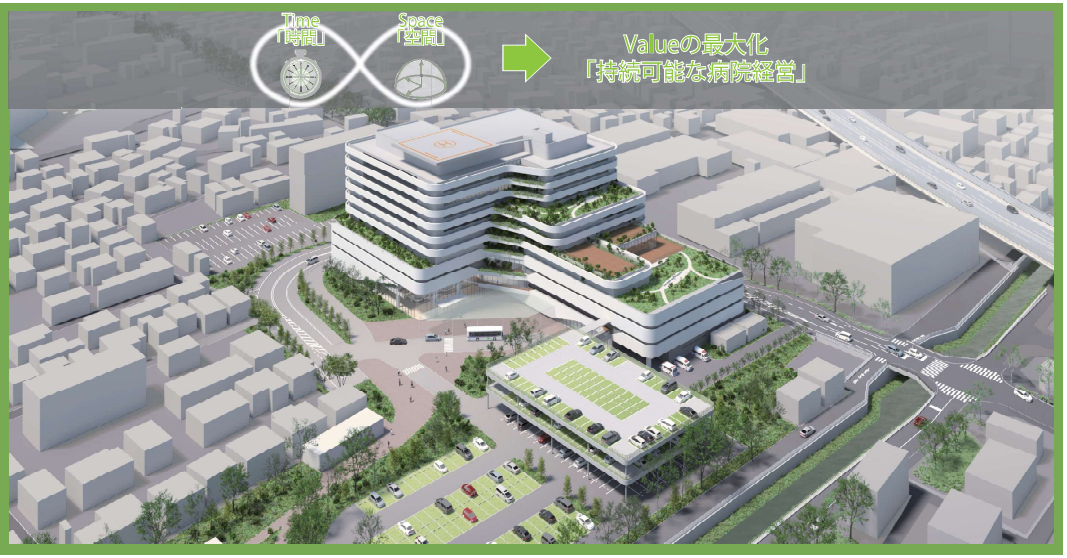
高度急性期医療を提供する
治療・職場環境における
時間と空間のバリューを最大化します

良質で適切な高度急性期医療を提供する高性能な病院
人口減少と高齢化が進行する中、県西二次保健医療圏で唯一の三次救急医療機関、災害拠点、地域の基幹病院として、最高の医療を発揮できる最新機能を備えた新病院

経営基盤の強化
地方公営企業法の全部適用に移行し、より自立的に経営を行う中で、効率的な医療提供を可能にする新病院

Time + Space 時間と空間のデザイン

- 医療施設のゾーニング・プランニングに時間の概念を導入することで、高効率な医療提供が行える[Value]（コストに対する価値）の高い病院を実現します。
- 医師・スタッフの移動や搬送に要する時間の短縮、患者さんの待ち時間や移動負担の軽減を図り、時間と空間のバリューを最大化します。



01 Time Saving （時間短縮） と Quality of Space （質の高い空間） による医療の質の向上

Time-Saving
（時間短縮）
EVを待つ必要なく階段で早く移動できる

- 迅速動線は、各階の主要な部門を縦につなぎ、患者動線交わらないスタッフ専用階段です。
- エレベーターを待つ必要なく、目的の部門に最短で到達でき、1分、1秒が大切な救急医療に貢献します。

❶『スタッフベース迅速階段』

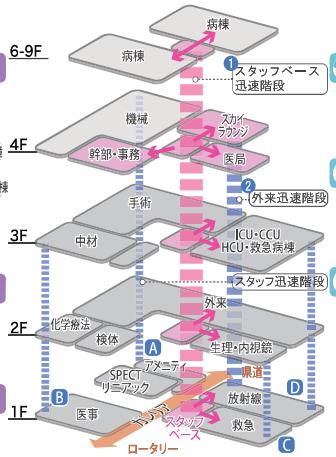
- 新病院の重心の位置にあるスタッフベースを全フロア縦につなぐ迅速階段で、救急・外来・検査・手術・病棟などあらゆる主要部門間を最短で移動できます。

❷『外来迅速階段』

- ４階スタッフオンリーフロアと２階外来を直結させる外来迅速階段を配置し、機動力を向上させます。

Ⓐ Ⓑ Ⓒ Ⓓ『スタッフ迅速階段』

- 主要部門をつなぐ4ヶ所の迅速階段は、スタッフの移動や施設管理、物品搬送の迅速化に寄与します。



Quality-of-Space
（質の高い空間）
スタッフの交流・活動・休息を促す

- スタッフベースは、各階の『重心』となる位置に各医療部門に隣接するように配置された、スタッフ専用空間です。
- スタッフの『交流』『活動』『休息』を促す様々な仕掛けを持ったゆとりあるスペースが、頭と体を平静に保ち、医療の質の向上と癒しにつながります。

交流 | コミュニケーション活性化の仕掛け

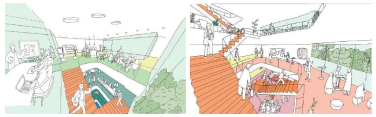
- 中央の吹抜階段でつながり、上下階の他部門スタッフとのコミュニケーションや日常の出会いによる情報交換を活発にします。

活動 | スタッフの学びの場ともなる仕掛け

- 患者の目線から遮られた場所で集中してチーム医療やカンファレンス、新人教育や研修を開催できます。

休息 | スタッフのこころの健康を保つ仕掛け

- 箱根連山の緑を望むバルコニーに面し、光と風を感じる心地よい場所で、心と体をリフレッシュできます。



来院者がどの方面からも最短でアクセスできる　ガレリア　来院患者を温かく迎える豊かなエントランス空間

ロータリーと県道を結ぶ2層吹抜の豊かなエントランス空間です。
小田原駅からも足柄駅からもアクセスしやすく、すべての来院者が最短でアクセスできます。

02 最速の救命救急医療を実現し、新病院面積を最大化する敷地利用計画

最速の救命救急動線を実現する配置計画

- 敷地のポテンシャルを活かし、すべてのスタッフや患者の動線最短化と空間のバリューを高めます。

Time

❶【命を守る救急車両の最短アプローチ】
県道74号から救急車玄関へ直結10秒でアプローチ

❷【24時間全患者を正面からダイレクトに受け止める時間外玄関】
時間外玄関はロータリーの正面に配置

❸【機能別アプローチによる安全かつスムーズな計画】
一般、救急、サービスの分離した専用ルートにより、迅速アクセス

❹【立体駐車場からの来院者を受け止める2階『ウェルカムグリーンテラス』】
立体駐車場から院内に直結

Space

❺【建設エリアの『最大化』】
敷地北側に設置する設備をコンパクトに配置し、低層階の診療機能の面積を『最大化』

❻【豊かな緑を継承】
グリーンパスによる環境バリューを最大化

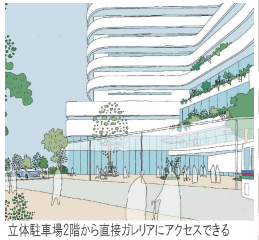
❼【将来の発展を望む敷地利用】
将来南側敷地の別棟との接続、敷地北東側に別棟の建設が可能な余地を確保

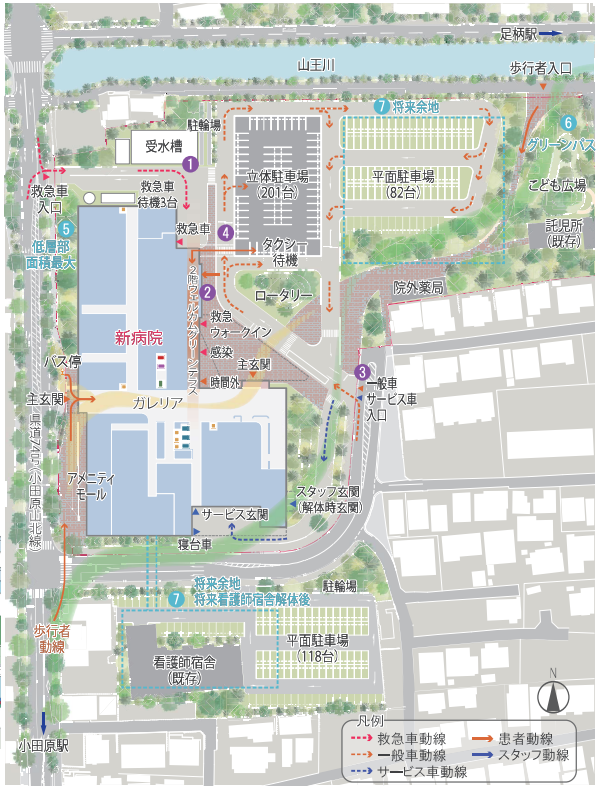
小田原駅からも足柄駅からも最速でわかりやすい患者来院

- 足柄駅・小田原駅から徒歩・バス・車・タクシー等あらゆる来院者が一切遠回りすることなく最短で病院エントランスにアクセスできるよう、東西に主玄関を設け、2層吹抜の豊かな空間『ガレリア』でつなぎます。

東西の主玄関をつなぐ2層吹抜の『ガレリア』

県道側の顔となる『アメニティモール』


立体駐車場2階から直接ガレリアにアクセスできる『ウェルカムグリーンテラス』



03 小田原市の歴史と多様性を未来につなぎ、小田原市立病院と市民を結ぶ、未来志向の病院を目指します

小田原市立病院と市民、小田原市と世界を結ぶ、「リボン（紐状の織物）」をデザインテーマとしています。先進的かつ親しみのある新病院を皆様と創り上げていきます。

周辺環境と調和した配置と外観デザイン

① 「リボン」に包まれる優しい療養環境をイメージし、酒匂川や箱根連山の大らかな形態と呼応しつつ、未来を志向する流麗な外観デザインを目指します。
② メインアプローチとなる県道側は、ガレリアやアメニティモールと一体となって来院者を出迎える流線形のデザインにより、新病院の「顔」となります。
③ ロータリー側は「welcome green terrace」の緑が患者さんを優しく迎えます。
④ 小田原駅からも足柄駅からも、徒歩での来院者が緑を感じながら迷わずアクセスできる緑溢れる遊歩道「グリーンパス」を整備します。
⑤ 周辺住宅街に配慮し、高層階をセットバックし圧迫感を減らしながら、バルコニーを設置して近隣との視線の交錯を防ぎます。
⑥ 高耐久性の防水型複層塗材により、永く美しい壁面を保持します。

患者さんの療養環境に配慮した内観デザイン

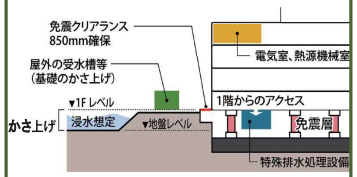
⑦ 伐採する樹木や地域産木材を再生利用し、安らげる療養環境とします。
⑧ 現地の土を活用したタイルやアートワークなどを市民参加型のワークショップで作成し、インテリアに展開するお手伝いをします。

上）ロータリー側ファサード　左）県道側ファサード　右）1階ガレリア

04 BCPホスピタル：3本の柱「建物を守る」「自立稼働する」「人を守る」

建物を守る

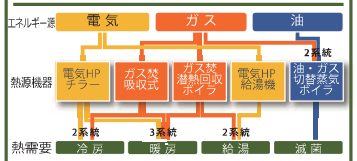
－ 壊れない・水没しない －



●台風やゲリラ豪雨など想定外の水害に備え、電気室や熱源機械室を4階に集約配置します。屋外設置の受水槽なども浸水想定レベル以上の高さに設置します。

自立稼働する

－ いかなる時も止まらない －

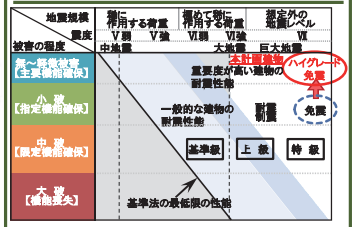


各熱需要（冷房・暖房・滅菌・給湯）に対し複数のエネルギー源（電気・ガス・油）から供給可能なシステムとします。

●太陽光パネルや蓄電池の設置、電気自動車連携による非常電源の「どこでも利用」など、多様な備えを施します。

人を守る

－ 落下しない・非難し易い・災害対応スタッフのケア －

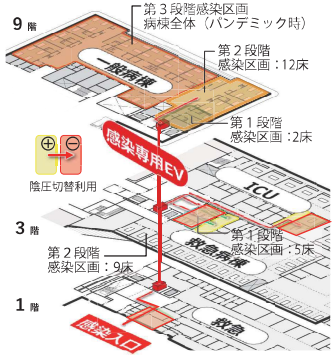


通常の免震構造の1.25倍のクリアランスを確保した「ハイグレード免震構造」を採用します。東日本大震災を超える想定外の巨大地震でも軽微な被害に抑え、天井落下や家具転倒を防ぎます。

05 パンデミック時にも通常診療を継続し、どんな時も小田原市民を守る万全の感染対策を可能にします

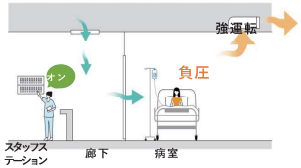
感染症患者と一般患者の動線分離、区画設定

●感染患者入口と診察室、待合室を一般患者動線から分離します。
●救急病棟、一般病棟で、感染症患者動線や区画を明確に分離します。
●感染拡大状況に合わせ感染区画を拡大できます。（7～9階は３段階、３階は２段階）
●7～9階西側病棟には感染専用EVを設置し感染患者の動線を分離します。



感染拡大させない病室気流コントロール

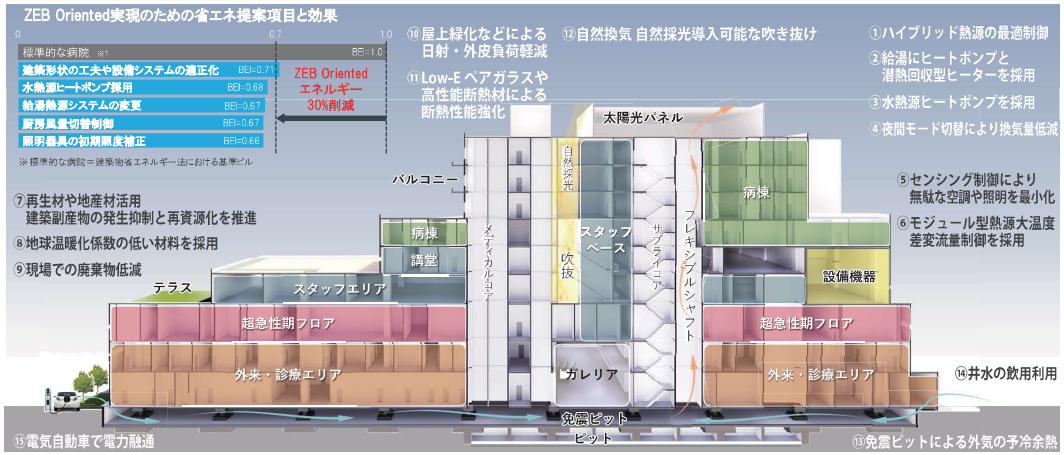
●病室内の排気ファンを強運転にすることで感染症患者の病室を陰圧にできます。
●各部屋の排気量はスタッフステーションで病室ごとに調節できます。



感染ワーキングによる感染管理ポリシー作成支援

●看護師経験を有するメンバーがWGに参画し、他病院事例紹介や情報提供を致します。
●感染症対応に加え、手洗いや汚物処理室などの常時の感染対策等、病院全体の感染管理ポリシー策定の支援をします。

06 「CASBEE-Sランク」「ZEB Oriented」を目指し、次世代につなぐ環境に優しい建物を実現します



病院の特徴に合った省エネルギーの工夫

①熱源は効率的な電気熱源をベースとし、ガス熱源を電力デマンドカット対応で併用し最適制御します。
②エネルギーロスの多い蒸気供給は滅菌と加湿に限定し、給湯はヒートポンプと潜熱回収型ヒーターで供給します。
③活動量の減る夜間はモード切替により換気量を低減します。
④年間冷房が多いエリアは水熱源ヒートポンプを採用し、冬季冷房排熱を暖房に熱回収利用します。
⑤センシング制御により無駄な空調や照明を最小化します。
⑥部分負荷運転時に効率の良いモジュール型熱源や、大温度差流量制御を採用します。

リサイクル材や環境に優しい材料の活用

⑦再生材利用のウッドデッキや段ボールダクトの採用など3R活動（リデュース・リユース・リサイクル）を推進します。
⑧地球温暖化係数の低い冷媒や断熱材を採用します。
⑨BIMモデルと連携した配管プレカットで現場での廃棄物を減らします。

地域性・周辺環境に呼応した環境負荷の低減

外装計画による負荷低減

⑩バルコニーや庇、ルーバー、屋上緑化等により日射・外皮負荷を低減します。
⑪Low-Eペアガラスや高性能断熱材を採用し断熱性能を強化します。

自然エネルギーによる負荷低減

⑫自然採光や自然換気が可能な吹き抜けをスタッフベースに設置します。
⑬免震ピットを活用し、外気の予冷余熱を行います。
⑭井水の高度処理をアウトソーシングにより導入し上水使用量を節約します。

蓄電した電力を地域の医療施設に誘導

⑮太陽光パネル（100kW）により創エネを推進します。さらに蓄電池と電気自動車により地域の医療施設へ電力を融通する事を可能とします。